

勝沼ぶどう郷古民家茶会 2023年10月15日

思えば昨年3月に古民家の広間で、皆さんと二階の蚕部屋の今後の利用法などを話し合っていた時が古民家茶会のきっかけ、始まりでした。農芸学舎、ぶどう郷古民家の特徴は

- ①ぶどう棚に手の届く縁側
- ②大きな鏡石のある庭
- ③付け書院のある広間

そして何よりもここに集う私達です。

この古民家の価値を活かした“農芸学舎”にふさわしい活動は何か？「そうだ、縁側のお茶だ」茶の湯をやろう!!
その時が農芸学舎のお茶の検討、準備のスタートです。



茶の湯(茶道)は、日本の文化を凝縮したものです。

というのは茶道の中には、美術、工芸、詩歌、書画、生け花、着物、茶室建築、造園、懐石料理、菓子など様々な要素が詰まっています。日本文化のイトコドリですね。

ヒトの心を思いやり、モノを大事に扱う習慣を身に着けるものであり、また**究極のおもてなしの心**です。60年代のヒッピーが関心をもったのは日本の禅ZEN メディテーションであり茶の湯と云われています。『禅と林檎』という書籍もありましたね。

さてさて その準備となりました。幸いなことに近隣の“お茶”に長けた方のご指導と古民家茶会に賛同いただいた方々のご支援により着々と準備が進みました。『勝沼ぶどう郷古民家茶会』と称する、最初の茶会試行版を実行することとしました。

当日私達の試みの茶会に参加いただいた方は山梨、千葉、埼玉、東京そして福岡からの全19名。



先ずは濃茶席。

床の掛物は古民家にあった山水画、花は秋明菊。

続いて席をあらため薄茶。



当日は生憎の雨でしたが、それがまた風情となり楽しみました。

今回の試行の成果をもとに、“農芸学舎のお茶”を進める

ことができると思います。そのためには ①地元支援者の参加

②炉の整備 ③水屋の整備 が必要ですが、なによりも

農芸学舎らしい年代を超えたコミュニケーションの場として“田舎家のお茶”を創り上げる意志が必要と
思います。気軽に、時に丁寧に日本文化をひとつを経験できる。縁側でのお茶も各イベントでの茶の湯
のサービス(呈茶)や地域のシンボルとしての“ぶどう畑の茶会”など、夢がありますね。

(記：佐々木担当)